

0214

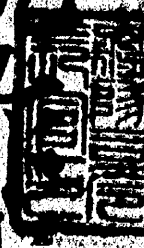
76

軍秘

海軍功績調査部

第一遣支艦隊機密第三八號ノ四七

自昭和十二年五月二十六日  
至昭和十二年五月三十日  
廿號作戰



廿號作戰部隊戦闘詳報

第一遣支艦隊司令部

7/25



## 一形勢

大東亞戰爭ハ十二月八日開戦以來我軍一方の勝利、裡々々る戦果、以テ着々進行シツツアリ

支那ニ在リテハ重慶側軍事動向ハ全般の積極的企圖ヲ認メサルモ四月中旬旬以降空軍、状況稍活潑化スルト共ニ第三戦區浙東方面、防備ヲ強化シツツアルモノ、如ク又四月七日日米空軍一部ノ日本本土、空襲ニ前後シテ便衣混成隊ニ依ル特務戦ヲ展開シ、我占領地區内部攪亂企圖セリ一方米國ハ浙江、江西省、支那飛行場ヨリスル日本本土空襲ヲ企圖セルモノ、如シ

即チ印度方面ヨリスル米英、入支機多数上リアリ空軍ノ充實ヲ圖ルト共ニ衢州、玉山、麗水等ノ前方飛行場ノ始メ吉安、衡陽、其ノ他東南方面各地飛行基地ノ整備擴張シ之等ヲ利用セトシタリ

而シテ逸早く我軍ノ廿號作戦、企圖ヲ察知セル敵ハ第九戦區ヨリ第二、七、四軍ヲ第三戦區方面ニ移動シ第三戦區ノ防備ヲ特ニ強化スルト共ニ衢州、玉山、麗水等ノ前方飛行場利用ヲ断念其ノ代リ桂林、吉安等或ハ西北方面、西安、漢中等ノ飛行場、擴張強化ヲ圖リ我占領地作戰地方面ニ對スル出撃ヲ企圖セリ、五月中旬我軍ハ浙江省方面ニ海陸軍協同、下ニ攻撃ヲ開始シ敵ヲ隨所ニ撃破潰走セシメ麗水、玉山、衢州、廣信等ノ要地ヲ攻略セリ、他方第十一軍ハ海軍部隊協力、下ニ五月末ヨリ南昌方面ニ作戰行動ヲ

開始シ忽チ貴溪、鷹潭、東鄉、建昌、臨川、宜黃、崇仁等、要所ヲ占領シ又第九戰區ヨリ來援ノ第四、七十九、五十八軍ヲ捕捉殲滅シ七月初旬遂ニ橫峯ヲ占領、第十一軍、第十三軍連絡スルニ至レリ。斯クテ所期ノ目的ヲ達成セルヲ以テ八月中旬反轉シ開始シ殆ド敵ノ妨害ヲ受クルコトナク集結ヲ完了セリ。

本作戰期間海陸軍ノ各地警備兵力稀薄トナリタルモ我軍ノ機先ヲ制セル積極的討伐攻撃ニ依リ他戰區ノ牽制反擊企圖ハ封殺セラレタリ。敵空軍ニ對シテハ六月中旬以降、ゲリラレ戰的行動稍活潑化スルニ至レルヲ以テ陸軍航空部隊ハ連日之ニ猛攻ヲ加ハタル結果八月中旬以降、懼伏スルニ至レリ。

### ニ計畫

(1) 本作戰開始直前ニ於テ艦隊編制及軍隊區分

艦隊編制

昭和十七年五月一日現在

支那方面艦隊		區
第一遣支艦隊		
附屬		分
		艦船部隊
		特設艦船部隊
		特設艦船部隊
		所管鎮中府
支那方面艦隊司令官		所屬長官
第一遣支艦隊司令官		

宇治、安宅、勢多、堅田、比良、保津、一見、熱海、伏見、隅田

漢口警備隊  
九江警備隊  
漢口在勤海軍武官府  
第一遣支艦隊軍法會議  
第六海軍軍用郵便所

吳

(二) 軍隊區分

上流警戒隊	警戒隊	漢口方面	主隊	隅田、勢多、堅田 特設砲艇四(408, 409, 415, 417) 砲艇(漢警)所屬中型(小發)	漢口警備隊 陸上部隊 新鴻興、小鷹、膠濟、蛭子丸 八號曳船、竹丸 砲艇(中型)五、艇三、艇二 小發二、滑走艇一 長官艇一、艇四、內火伝馬船二	宇治	區分兵	隅田艦長	漢口警備隊司令	第一遣支艦隊長官	指揮官	上流(含マズ)ヨリ 揚子江本流洞庭 湖及同沿岸	漢水同沿岸 川附近ヨリ下流 ル揚子江本流漢 陽邏(含マズ)ニ至 域沌口(含ム)ヨリ 武漢海軍警備區	全	分担區域	揚子江部隊軍隊區分 昭和十七年五月一日現在
-------	-----	------	----	---	--	----	-----	------	---------	----------	-----	-------------------------------	--	---	------	--------------------------

<p>記事</p>	<p>九江方面 警言戒隊</p>	<p>下流警言戒隊</p>	<p>中流警言戒隊</p>
<p>一將旗ヲ艦隊司令部廳舎ニ移揚中宇治ハ主トシテ龍口、黄石港間ノ區域ヲ適宜行動シ作戰警言備關シ關係警言戒隊ニ協力スルモノトス 二滑走艇、攔分子、常用分母、補用トス</p>	<p>九江警言備隊 陸上部隊 文星、海州、楓丸、四號史船 砲艇(中型五、刑二機、艇九小發) 二滑走艇(三) 一内火伝馬船二</p>	<p>安宅艦長 湖口(含マス)ヨリ 蕪湖(含マス)ニ至ル揚子江本流及同沿岸</p>	<p>伏見、保津、熱海 特設砲艇四(410、411、412、413) 砲艇(漢警言所屬小發一)</p> <p>伏見艦長 陽邏(含ム)ヨリ 官湖港(含マス)ニ至ル揚子江本流及同沿岸</p>

(四)廿號作戰決定ニ至ル迄ノ経緯

五月四日首席參謀支那方面艦隊司令部招致セラレ計畫大要ヲ指示セラルト共ニ當方内案ヲ提示下協議シ五月四日支那方面艦隊司令長官ヨリ作戰實施ニ關スル命令發令セラレ

(イ)中央及最高指揮官、作戰命令ニ關スル諸指示及陸軍其ノ他トノ協定ノ経緯茲ニ内容

(一)五月四日附支那方面艦隊司令長官、作戰ニ關スル命令

(機密支那方面艦隊作命令第一號)發令セラレ(別冊第二參照)

(二)五月四日首席參謀支那方面艦隊司令部出張作戰打合ヲ行ヒ當方内案提示特ニ支那方面艦隊ヨリ陸戰隊、砲艇隊、測量船、工作船、病院船、雜役船(砲艦代用トナシ得ルモノ)及水偵隊ノ配屬ヲ要望セシ處五月六日機密支那方面艦隊電令作第七七號ニ依リ水偵隊ノ外概テ希望通配屬セシメラル

(三)五月十一日附揚子江部隊指揮官、作戰準備ニ關スル命令

(機密揚子江部隊作命令第一號)發令セラレ(別冊第三參照)

(四)五月十三日附揚子江部隊指揮官、作戰實施ニ關スル命令

(機密揚子江部隊作命令第二號)發令セラレ(別冊第四參照)

(五)五月十四日附揚子江部隊指揮官、通信計畫發令セラレ

(機密揚子江部隊命令第八號)  
(六)陸軍ト協定

(別冊第五參照)

(一)四月下旬以降屢々第十二軍ト協議シ五月二十四日廿號作戰ニ關スル

第一遣支艦隊第十一軍間協定ノ締結ス (別冊第六參照)

(二)各部隊ト協力陸軍部隊間ノ細目協定ニ關シテハ各指揮官ヲレテ直接協議セシム

五月二十九日宇治(在星子)於テ第一遣支艦隊參謀長、六十八師團參謀長、鄱陽湖部隊指揮官、平野支隊長會同都昌方面攻畧細部協定ヲ實施ス (別冊第七參照)

五月二十六日及二十九日南昌部隊指揮官ハ第三師團及井手支隊ト南昌方面作戰細部協定ヲ協議決定ス (別冊第八參照)

(三)陸海軍協同作戰通信ニ關シ協定ヲ遂ケ五月二十日附作戰參加艦艇指揮官ニ通告ス (別冊第九參照)

(二)作戰準備

(一)人員、艦船、兵器、需品、其他、作戰用器材及施設ニ關スル準備

(別冊第三、別冊第十參照)

(二)作戰、爲支那方面艦隊ヨリ編入セラレタル船艇部隊(大發ヲ除ク)並ニ保津二見小鷹美快八曳竹丸及四三砲艇、五月二十五日迄ニ其他、漢警



派遣舟艇ハ五月二十日迄ニ上根派遣大發ハ準備出来次第九江ニ集合  
セシム

(2) 各部ヨリ派遣舟艇ハ作戰部隊編成迄九警司令、指揮下ニ入ラシメ九  
警言舟艇ト共ニ小掃海流、掃海機雷處分及設標等ノ訓練ノ實施  
ス、又之等舟艇ハ各船毎ニ番號ヲ與ヘ標識ヲ附セシム

(3) 九警司令ラシテ星子ニ砲艇基地ヲ設置セシメ亦流シ掃海用トシテ戎克十  
ニ隻ヲ徵傭シ二十五日迄ニ星子及南昌(各六隻)ニ回航セシム備入戎克ハ大型  
ニシテ流シ掃海用ニ不適ナリシヲ以テ三十日星子ニ於テ小型戎克六隻ヲ傭  
入大型戎克ハ作戰開始後歸還セシム

(4) 新鴻興ヲ作戰期間中兵器彈藥補給担任船ニ指定シ所要兵器、需  
品ヲ搭載セシムト共ニ艦隊司令部ヨリ兵器係下士官一名ヲ派遣シ同船指揮  
官ノ命ヲ受ケ兵器ヲ配給、處理ニ當ラシム

又漢警派遣陸戰隊ヲ乗船、上五月二十日迄ニ九江ニ回航セシム

(5) 第一軍需部漢口支部、同九江軍需品配給所ハ兵器、彈藥、燃料、糧食等  
ノ準備補給ヲ担当セリ、廿號作戰軍需品補給實施要領(別冊第十參照)  
ハ漢口及九江測量隊ハ作戰地ニ於ケル航路標識ヲ準備ス

各艦船(隊)ハ作戰開始前訓練整備ニ従事ス  
兵要資料ノ蒐集

(一)九江測量隊ニテ鄱陽湖方面水路圖ヲ蒐集セルモ何レモ調査年月日相當古ク充分ニ信用シ得ルモノヲ得ズ

準備セル主要ナル圖誌次、如シ(鄱陽湖方面)

1. 海圖第六二〇號(鄱陽湖)一九三三年、英國及一九三五年、中國海圖ヲ採ル原圖、一九〇六年迄、英國ノ略測

2. 青寫眞、鄱陽湖水路參考圖小判大正元年八月十八日、同十九日軍艦鳥羽略測ニ依ル

大判 同右

鄱陽湖——一六六一—一九〇六年諸畧測ニ據ル英國海圖ニトシ

鄱陽湖——昭和十四年七月十五日南昌作戰後第一回調査、分

(二) 鄱陽湖方面水路ニ通曉セル中國水先人ヲ索メ鄱陽湖部隊指揮官乘艦ニ乘艦セシム

(ホ) 偵察、牽制等ノ準備行動並ニ宣傳謀畧等、諸施策

(一) 上流警戒隊ヲシテ五月中旬及六月上旬第六師團ノ牽制陽動作戦ニ呼應シ各艦艇ヲ岳州方面ニ集結屢々洞庭湖内ニ進入敵ヲ牽制セシム

五月中旬司令長官ハ宇治ヲ率テ津早瀬ト共ニ右作戰ノ支援ス

(二) 報道宣傳ニ関シテハ呂集團司令部下連絡ヲ密ニ左方針ニ基キ處理ス

(三) 支那事變處理ニ関スル本格的作戰開始セラレタルノ印象ヲ與ヘ且作戰全期

ノ通シ敵、慘敗、戰意喪失狀況ヲ又特ニ作戰末期ニ於テハ米支合作崩壊ノ事實ヲ強調シテ重慶側ノ抗戰前途ニ對スル絶望感ヲ激化セシメ抗戰態勢、崩壊促進ヲ計ル

(2) 數次ノ大作戦ヲ敢行セルモ尚綽々ナル餘カヲ保テ重慶ニ對シ不斷ノ武力強圧ヲ加ヘアル狀況ヲ銃後國民茲ニ内外ニ顯現ス

(3) 海軍側從軍者、新聞記者四名中支艦隊報道部寫眞班一名ヲ参加セシム

(一) 作戰計畫立案及作戰命令發布並ニ本期間ニ於ケル計畫變更

米機ハ我本土空襲、爲浙贛鐵道沿線飛行場ヲ利用セントセリ

支那派遣軍ハ第十三軍ノ主力ヲ以テ浙江方面ノ敵戦力ヲ撃破シ重慶ヲ飛行場ヲ覆滅スルト共ニ第十一軍ヲ以テ江西方面ヨリ牽制作戦ヲ安貝施セントス

支那方面艦隊ハ揚子江部隊、上海方面部隊、南支部隊及上海海軍特別

陸戦隊~~部~~ヲ以テ右ニ協力スルトトナル

揚子江部隊ハ揚子江特ニ九江、蕪湖間水路ヲ警戒確保スルト共ニ所要應

陸軍部隊ヲ作戰ニ呼應シ鄱陽湖方面ニ陽動敵ヲ牽制シ要スレバ鄱陽湖水路啓閉ニ任シ又洞庭湖岳州方面ニ陽動牽制セントス

(二) 作戰方針

第十一軍は主力ヲ以テ五月末南昌附近ヨリ攻勢ヲ開始シ進賢、撫川方面ニ向ヒ作戰シ南昌東方ノ敵ヲ撃滅スルト共ニ第三戰區救援ヲ企圖スベキ敵兵力ノ牽制ニ任ジ概ネ七月下旬反轉ノ豫定

又其一部(概ネ一々大隊基幹)ハ六月上旬鄱陽湖北部ニ機動シ都昌ヲ攻畧又他一部ハ五月中旬以降岳州方面ニ集結シ第九戰區西部ノ敵ヲ牽制ス第十一軍ハ五月中旬行動開始概ネ八月上旬頃反轉ノ豫定

揚子江部隊ハ主トシテ第十一軍ノ作戰ニ協力主隊及鄱陽湖部隊ヲ以テ六月初旬所要ノ水路ヲ啓開シ陸軍平野支隊(山砲所有歩兵一々大隊基幹)ノ嚮導シ其ノ都昌占領ヲ支援スルト共ニ陸戰隊ヲ以テ大沙島(都昌南方)ヲ占領次テ陸軍ノ嚮導黃磯崖占領ヲ支援シ自後瑞洪ニ至ル鄱陽湖主水路ヲ順次啓開確保此ノ方面ニ陽動ヲ實施ス

南昌部隊ヲ以テ第十一軍主力作戰ニ協力五月末ヨリ贛江水路ノ警戒ノ至嚴ニシ他方南昌南方水路及撫河ヲ啓開シ又測量部隊ヲシテ鄱陽湖啓開水路ノ精測セシメ陸軍ノ輸送及補給路ヲ確保ス

一部ヲ以テ洞庭湖方面ニ陽動敵ヲ牽制スルト共ニ揚子江岸全段特ニ下流方面ノ警戒ヲ嚴ナラシメ敵ノ蠢動ヲ制圧セントス

(三)兵力部署及各部隊ノ行動等

右作戰方針ニ基キ五月十三日附機密揚子江部隊作命令第二號ヲ發布

七號作戰軍隊區分は各隊ノ行動ヲ指令ス  
（別冊第三參照）  
（四）作戰期間ニ於テハ計畫ノ變更

（一）鄱陽湖方面ノ作戰ハ計畫通圓滑ニ進歩シ十日頃迄ニ廣信江口康山迄水路啓開進出之ヲ確保シ得ル見込立テタルヲ以テ自後ノ作戰ヲ準備シ水偵並ニ陸地測量班ノ派遣方ヲ要請スルト共ニ饒州攻撃ニ関レ第十軍ト下協議セルモ陸軍ニ於テハ他方面ニ作戰遂行ノ要アル為暫ク保留サレ度旨申出アリ沙汰止ミトナル

（二）鄱陽湖方面作戰ハ極メテ順調ニ進展セルモ旗艦湖上探ク進入スル為所要ノ向トノ連絡不如意且速ニ鄱陽湖方面寫真偵察實施ノ要アリ

（鄱陽湖並ニ南昌方面作戰觀察ノ為支那方面艦隊ヨリ派遣中ノ參謀ト下協議トシ）六月五日水偵一機派遣方支那方面艦隊ニ要請セル所同七日青根ヨリ水偵一機揚子江部隊指揮官ノ作戰指揮下ニ入ルトナレリ同九日九四式水偵一機大鵝山基地ニ到着セルヲ以テ鄱陽湖方面ノ敵情地形偵察敵軍ニ對スル攻撃ノ任務ヲ與ヘ附屬隊ニ編入ス

（三）艦隊鄱陽湖進入ヲ機トシ海陸軍共信賴スルニ圖誌ナキヲ以テ此際同方面ノ精測シ海圖作製ノ要アリト認メ六月二十日ヨリ東鄱陽湖主水路附近陸地測量ヲ開始（六月二十九日總庫ヨリ經驗者一名助手二名ノ派遣ヲ得）ス

(4) 六月十二日首席參謀ヲ南昌ニ派遣作戰ニ關シ第土軍ト連絡協議  
 セシタル所陸軍ハ第三十四師團、鷹潭、貴溪方面進出ニ伴ヒ水路兵  
 站線トシテ廣信江及東西河確保ヲ要アリ海軍、協力ヲ求メ来レルヲ  
 以テ南昌部隊ヲ以テ今井支隊、一部ニ協力東西河ヲ鄱陽湖部隊  
 シ以テ平野支隊ニ協力廣信江ヲ啓開セシムトトシ十五日行動ヲ開始ス  
 (十七日東西河、啓開完了、廣信江ト連絡ニ十三日余江迄廣信江ヲ啓  
 開完了ス)

七月ニ入リ陸軍側ヨリ東西河減水時、廣信江、南昌連絡水路トシテ東  
 西河南方水路(滁槎下流一湮ヨリ瑞洪ニ直通ル水路)ヲ啓開方要請ア  
 リタルヲ以テ南昌部隊ヲ以テ五日行動開始八日完全ニ水路ヲ啓開ス  
 更ニ余江鷹潭間水路、啓開ヲモ要求シ来レルヲ以テ鄱陽湖部隊砲艇  
 隊ヲ以テ十日同水路ヲ調査設標ヲ完了ス

(5) 六月十八日參謀ヲ南昌ニ派遣饒州作戰ニ關シ陸軍ト連絡打合ヲチ  
 サシメタル所陸軍側ニ、饒州攻畧準備ナキヲ以テ海軍獨力ニ攻畧ス  
 ニ決ス

饒州方面ニ對シ屢次、飛行偵察ヲ行ヒ本偵察ニ依リ饒州攻畧計畫  
 案ヲ立案ス其ノ大要次、通  
 不參加兵力ハ主隊鄱陽湖部隊、大部測量部隊、附屬隊、南昌部隊

一部及新漢口警備隊ヲ編成セル山砲隊(山砲二門)並砲艇隊(秋巴  
 ニシテ甲陸戰隊(三ヶ分隊欠)乙陸戰隊及宇治保津並飛鳥ヨリ派遣  
 ノ陸戰隊ヲ以テ陸戰部隊ヲ編成セリ

二十五日團轉發作戰開始掃海部隊ハ饒州水路ヲ啓開進撃水偵  
 二十五日及港八字腦ノ攻撃ヲ饒州ニ降伏勸告傳單ヲ撒布ス陸戰  
 部隊ハ二十六日八字腦北方地點ニ上陸八字腦及港ノ攻撃ヲ續クテ饒  
 州ニ突入山砲隊ハ及港ヨリ饒州ニ對シ砲撃ヲ加フルコトス然ルニ水偵ハ  
 二十五日夕刻事故ヲ為燒失セルヲ以テ差當リ第十一軍ニ陸軍機協力  
 ヲ求メタル所受諾セルモ二十六日天候稍不良ヲ為結局陸軍機協力  
 ヲ得ラズニ十七日補用水偵一機到着セリ

樂平方面ニ敵一部兵力集中シアリ陸軍ニ於テ之ヲ攻撃シ之ヲ企圖シ饒  
 州東部樂平方面航空寫真ノ有無饒州樂平間水路狀況等  
 照會シ未レルヲ以テ當艦隊ニアリテモ之等兵要資料準備中ノ陸軍  
 ハ樂平作戰ヲ實施セバ、現對勢ノ反轉時機ヲ待ツコトナリタル  
 ヲ以テ本計畫ヲ中止ス

(1) 計畫準備期間ニ於ケル指揮官行動並麾下兵力移動ノ概況

(一) 揚子江部隊指揮官主トシテ艦隊司令部片倉在リテ作戰準備ヲ指揮ス  
 五月十四日宇治ヲ率テ漢口發同十五日岳州着上流警戒隊ノ洞庭湖方面

陽動ヲ支援セリ、同十九日岳州發漢口ニ歸着セリ。

(二)上流警戒隊ハ五月中旬第六師團ノ陽動作戦ニ呼應シ各艦艇ヲ岳州方面ニ集結、屢洞庭湖内ニ進入敵ヲ牽制ス。

保津ハ五月十三日ヨリ同二十日迄上流警戒隊指揮官ノ作战指揮下ニ入リ

岳州方面ニ在リテ右陽動作戦ニ参加ス。

(三)見ハ作战打合、爲五月十五日哨區發、十七日漢口着

(四)作战参加艦船部隊ヲ左依リ九三集結セシム

二見

保津(四三砲艇共)

飛鳥

早瀬

牟婁丸(牟婁丸病院)

小鷹

美快

竹丸

八號曳船

杉丸(測量艇共)

青根旅遣陸戦隊

五月二十五日

新鷄興

漢警派遣小舟艇

漢警派遣陸戦隊

上根旅遣大發

五月二十日



## 三経過

(ハ) 指揮官、作戦指導及其行動

(ニ) 作戦指導

五月二十五日作戦部隊ノ編成(作戦開始期)作戦ノ實施シ八月二十七日廿號作戦部隊第貳軍隊區分ノ解キ爾後固有軍隊區分ニ依リ各營備區ニテリテ廿號作戦ノ續行シ九月十日作戦ノ終結ス其ノ間概ネ計畫通指導アリ

五月二十六日

○作戦初期南昌部隊ノ作戦指導輔佐ニ第十軍司令部トノ連絡、為艦隊副官ノ南昌部隊ニ派遣ス

○旗艦宇治ニ各級指揮官ヲ參集シメ作戦開始ニ當リ訓示ヲ與ヘ作戦打合ヲ行フ

○南昌部隊ハ南昌ニ集結ス

望城崗ニ於テ第三師團協力事項ニ関シ協議ス

五月二十七日

保津及四三砲艇ヲ二十七日ヨリ二十九日迄下流部隊ニ協力セシム

五月二十九日

○星子ニ於テ陸軍平野支隊ト鄱陽湖方面作戦ニ関シ細部協定ヲ行フ

○南昌基地ニ於テ南昌部隊ト第三師團井子支隊、破泊場南昌支部  
間細部協定ヲ行フ

五月二十日

○鄱陽湖方面部隊各指揮官ヲ旗艦ニ參集セシメ都昌方面攻畧ニ関スル  
指示ヲ與フルト共ニ作戰打合ヲ行フ

○夕刻ヨリ陸海軍協同編隊訓練ヲ行フ

六月一日

○星子ノ進發ヒル陸軍南山攻畧部隊梯團ハ暗夜ヲ爲前半ト後半、  
連絡ヲ失ヒタルヲ以テ一應宇治附近ニ集結セシメ隊形ヲ整ハタル上出發  
セシム

六月二日

甲陸戰隊ハ〇四四五迄ニ大沙島掃蕩完了大鷄山ニ移駐セシム  
平野支隊ハ〇三〇〇頃大鷄山上陸成功。九三〇頃迄ニ都昌ヲ攻畧占領ス

六月三日

○保津ハ大沙島北岸ニ於テ機雷ヲ發見處分セルヲ以テ機雷ニ對スル見張  
警言戒ヲ特ニ嚴ニス

○甲陸戰隊ヲシテ大雞山基地前湖岸ニ水標ヲ設置セシメ水位ヲ前日ト  
上下ヲ通報セシム

- 早瀬ヲシテ大鷄山基地ニ小舟艇用棧橋ヲ設營セシム
- 新鷄興ノ六日以後小船艇ニ對スル燃料補給中継船トシ配給艇トシテ第一永宝丸(機附漢船)ヲ附屬セシム
- 新鷄興ヲシテ五日一ニ〇〇迄ニ星子ニ回航小舟艇補給用燃料搭載上歸投セシム
- 早瀬、新鷄興、八曳ヲ都昌沖ニ進出セシム
- 保津ヲシテ陸軍、黃磯崖攻畧支援、爲象山南方ニ進出セシム
- 六月四日
- 舟艇若干ヲ以テ象山東方入江内ニアル敵性戎克ヲ拿捕ス
- 六月五日
- 保津、黃磯崖南方宇治附近ニ進出ス
- 八曳及舟艇若干ヲ以テ黃磯崖方面敵性戎克ヲ拿捕ス
- 保津及四三號砲艇ノ鄧陽湖部隊ノ作戰指揮トスル
- 六月六日
- 早瀬ヲシテ黃磯崖ニ棧橋ヲ設營セシム
- 六月七日
- 牟婁丸ヲシテ大鷄山泊地ヲリテ甲陸戰隊トノ連絡ニ任セシム
- 六月八日

○甲陸(二ヶ分隊欠)ヲシテ新鵜興ニ乗船康山ニ進出掃蕩セシム、甲陸(三ヶ分隊欠)ハ當分康山ニ駐屯ノコトトス

○八曳ヲシテ康山泊地ニ坐洲セル第十六播州丸(給糧船)、離洲作業ニ從事セシム

六月九日

○鄒陽湖方面作戰進展ニ伴ヒ旗艦所要ノ向トノ連絡不如意且速ニ鄒陽湖方面寫真偵察實施ノ要アリ五日水偵一機派遣方支那方面艦隊司令部ニ要請セル所同七日青根ヨリ水偵一機派遣セルコトナリ本日大鷄山基地着附属隊ニ編入ス鄒陽湖方面敵情地形偵察敵軍ニ對スル銃爆撃ヲ實施セシム

○新鵜興ヲシテ大鷄山ニテ陸上基地設營迄母艦任務ニ從事セシム

○甲陸戰隊及宇治派遣陸戰隊ヲ以テ漢山ヲ掃蕩ス

六月十日

○鄒陽湖部隊主力ヲ以テ鄒陽水路(南瓢山ヨリ八字腦附近迄)ヲ掃蕩終了

○測量部隊ヲシテ右水路ヲ測量設標セシム

○保津及四三砲艇ハ康山ニテ附近水路ヲ警戒ス

六月十一日

○宇治陸戰隊ヲ以テ南瓢山諸島ヲ掃蕩宣撫ス

六月十五日

○十二日首席參謀ヲ南昌ニ派遣作戰ニ関レ陸軍側ト連絡協議ニ所  
陸軍ハ第三十四師團、鷹潭、貴溪方面進出ニ伴、水路兵站線ト  
テ廣信江、東西河確保ノ要アリ、海軍、協力ヲ求メ来レルヲ以テ南昌  
部隊ヲ以テ今井支隊ノ一部ニ協力東西河ノ鄱陽湖部隊ヲ以テ平野  
支隊ニ協力廣信江ヲ夫々啓開セムルコトトス

宇治ニ見、新鵝興ラシテ陸軍平野支隊、都昌、康山間、輸送ニ任  
シ、平野支隊ハ康山ニ於テ大發、砲艇ニ分乘、梅溪ニ上陸ス  
鄱陽湖部隊ハ右上陸作戰ヲ支援ス  
水偵ハ上陸地點、偵察並ニ附近ノ敵ニ對レ攻撃手ニ任ズ

六月十八日

○參謀ヲ南昌ニ派遣饒州作戰ニ關レ陸軍ト連絡打合ヲナサレタル所陸  
軍側ニハ饒州攻畧準備ナキヲ以テ海軍獨力ヲ攻畧スルニ決ス  
漢聲言ラシテ砲隊(野砲二門)及砲艇隊(蘇式艇四隻)ヲ編成セシメ  
二十二日中ニ九江ニ派遣セシム

六月十九日

○牟婁丸ハ陸軍患者ヲ輸送九江發漢口ニ回航ス  
○小鷹及美快ヲ南昌部隊ヨリ除キ鄱陽湖部隊ニ加フ

○保津及四三砲艇ヲ鄱陽湖部隊ヨリ除キ測量部隊ノ陸測ヲ支援セシム

六月二十日

○二十五日ヨリ饒州作戰ヲ開始スル為ニ二十三日〇〇迄ニ鄱陽湖部隊(小鷹美快、中砲四、舩六、大發三、甲陸一部欠)乙陸、中砲三、大發一(以上南昌部隊)山砲隊及舩四(漢警)測量部隊、保津八曳、四三砲艇ヲ康山ニ集結セシム

水偵及新鷓興及大發二隻ハ二十二日康山ニ進出ス

○鄱陽湖進入ヲ期トシ海陸圖共信賴スルキチナキ同方面ヲ精測シ海圖作製ヲ要アリト認メ總軍ヨリ經驗者一名助手二名ノ派遣ヲ得テ測量部隊ヲシテ東鄱陽湖主水路附近陸地測量ヲ實施ス

六月二十一日

○饒州作戰部隊編入豫定砲艇隊大發二隻ヲ以テ平野支隊ノ余江攻畧ニ協力セシム

六月二十二日

○飛鳥ヲ下流部隊ヨリ除キ主隊ニ加ヘテ二十三日正午迄ニ南甌山ニ回航セシム

○饒州方面ニ對シ屢次ノ飛行偵察ヲ行フト共ニ主務參謀及陸戰隊指揮官ハ水偵ニ依リ饒州方面偵察ヲ實施シ饒州攻畧計畫ヲ立案ス

○隅田新堤ニ於テ敵戰鬥機五機ト交戦人員、船体、兵器機關ニ損傷ヲ

蒙リタルヲ以テ牟婁丸揚北(造船造兵関係者便乘)ヲ現場ニ急行  
セシム

堅田艦長ヲシテ上警隊ヲ指揮セシム

漢懿言上田大尉ニ隅田艦長代理ヲ命ズ

早瀬ヲ九江ニ回航待機セシム

牟婁丸ハ傷病者ヲ漢懿言ニ病舎ニ陸揚シタル後ニ六日中大鷄山ニ歸  
投ス

六月二十三日

○早瀬派遣、要ヲキテ以テ大鷄山ニ復歸セシム

○八曳ラシテ瑞洪下流ニ坐洲ル喜久丸(給油船)引却作業ニ從事セシム

○一六。〇。饒州作戰部隊ヲ編成ス

甲陸、乙陸、山砲隊及宇治保津茲ニ飛鳥ヨリ派遣、陸戰隊ヲ以テ陸  
戰部隊ヲ編成ス

○星子補給基地ヲ康山ニ進出セシム

六月二十四日

○饒州攻畧部隊、大部ヲ團轉ニ集結セシム

六月二十五日

○饒州作戰ヲ開始ス

○夕刻事故、為水偵焼失セルヲ以テ陸軍機ノ協力ニ依頼スルト共ニ方面艦隊ニ補用機ノ派遣方ヲ要請ス

六月二十六日

○天候稍不良、為陸軍機ノ協力ハ得ラズ

○將旗ヲ保津ニ移揚保津ヲ率丹ノ字艦方面ニ行動陸戰部隊及掃海部隊、作戰ヲ支援ス

○陸戰部隊ハ地點ニ於テ交戰中ト、報ニ滑走艇及中型砲艇ヲ派遣シ江上ヨリ敵ヲ攻撃手ス

六月二十七日

○昨日饒州ヲ占領セルモ及港ノ要害ノ地ナルヲ以テ常ニ砲艇ニ隻程度ヲ警言泊セルム

六月二十八日

○饒州占領ニシテ敵軍牽制ノ効果ヲ一層發揚スル為水偵ヲ以テ時々景德鎮及樂平方面ニ偵察爆撃セルム

○饒州作戰部隊解散迄陸戰部隊ヲ二見艦長ノ指揮下ニ入ル

○保津陸戰部隊ハ陸戰部隊ヲ除キ保津ニ復取セルム

○保津ヨリ八隻ニ派遣中ノ電信員ヲ保津ニ復取セルム

○鄱陽湖方面作戰、見透ツキ且中警隊方面兵力手薄、為保津及



西三砲艇ヲ士號作戰部隊軍隊區分中ヨリ除キ中警隊ニ復飯セシム  
 ○饒州作戰ニテ得タル捕虜(少尉ヲ長トスル十六名)ハ九江ニ送致シ上陸軍  
 ニ引渡サシム

○南昌方面ト鄱陽湖方面ト連絡ヲ為南昌部隊ヨリ梅溪附近ニ警言戒  
 艇一隻配置セシム

六月三十日

○鄱陽湖部隊一部ヲ以テ陸軍中山部隊輸送民船團ノ水路嚮導  
 茲ニ警言戒ニ當ラシム

七月一日

○康山増水ヲ為基地人員物件ヲ新鵝興ニ乘船セシム

七月二日

○宇治及飛鳥旅遣陸戰隊ヲ陸戰部隊ヨリ除キ各艦ニ復飯セシム

○饒州ニ於テ押收セル敵性物資ヲ搬出終リ作戰目的ヲ達成セルヲ以テ

饒州攻畧部隊ノ編成ヲ解ク

水上根旅遣大發四隻青根陸戰隊漢警言山砲隊及同航四隻ヲ六日迄

ニ九江ニ回航セシム

口、乙陸大發一、中砲二隻ハ南昌ニ復飯ス  
 八甲陸三、分隊三ハ康山基地(新鵝興)ニ復飯ス  
 二、饒州ヨリ回航ニ至ル設標ヲ撤收ス

ホ飛鳥ヲシテ測量部隊ノ警言戒支援ニ當ラシメ大發一隻ヲ附屬セシム  
ハ南昌部隊ノ大發一隻ヲ南昌部隊ヨリ除キ六百迄九江ニ回航セシム

七月三日

○牟婁丸ヲシテ青根陸戰隊漢警山砲隊員ヲ收容ノ上九江ニ回航セシム  
○八曳ヲシテ鄱陽湖部隊指揮官ノ作戰指揮ヲ受ケシム

七月四日

牟婁丸ヲシテ陸軍患者收容ノ上九江發漢口ニ輸送セシム  
七日以後適宜陸海軍患者收容上海ニ下江セシム

七月五日

陸軍側ノ要望アリ南昌部隊ヲシテ東西河減水時ノ兵站水路トシテ東  
西河南方水路ヲ啓開確保セシム

七月七日

○陸軍側ノ要望アリ鄱陽湖部隊ヲシテ余江鷹潭間水路ニ設標セシム

○鄱陽湖及廣信江水路ノ啓開進撃ヲ完了セシム以テ爾後同水路維持

確保陸軍徵發物資後送ヲ誘導支援ニ任ジ且水偵ヲ以テ饒州附近

景德鎮及樂平方面ノ偵察軍事施設ニ敵兵ニ對スル攻撃ヲ實施ス

○早瀬ヲシテ康山ニ進出新鵝興ヨリ砲艇用燃料及潤滑油ヲ移載砲艇

ニ對スル燃料補給中継船ヲシム

○新鷓與ヲシテ康山陸戰隊收容、上大鷓山ニ回航セシム

○飛鳥七號艇、長官艇、測量部隊及附屬隊ヲ鄱陽湖部隊指揮官作

戰指揮下ニ入ル

七月九日

廿號作戰軍隊區分ヨリ牟婁丸(牟婁丸病院)ヲ除ク

七月十七日

飛鳥ヲ鄱陽湖部隊ヨリ除キ下流部隊ニ復皈セシム

七月二十日

廿號作戰部隊軍隊區分ヨリ青根派遺水偵ヲ除ク

七月二十五日

早瀬ヲシテ大鷓山水上機基地仮兵舎ヲ撤收セシム

七月二十八日

廿號作戰部隊軍隊區分中ヨリ飛鳥ヲ除ク

七月二十九日

長官艇、測量部隊及附屬隊ニ對スル鄱陽湖部隊指揮官ノ作戰指

揮ヲ解ク

七月三十一日

陸軍ニ於テ樂平、饒州方面航空寫真ノ有無水路狀況照會シ奉レ

ルヲ以テ測量部隊ニテ自團轉至鄱陽測量圖竝ニ航空寫真ヲ準備セシム

八月十一日

○新鴻興、早瀬、長官艇及七號艇ヲ鄱陽湖部隊指揮官ノ作戰指揮下ニスル

八月十六日

○作戰部隊兵力撤收ニ関シ指令ス(八月十六日揚子江部隊電令作第ニ六號參照)

○廿號作戰部隊軍隊區分ノ解キタル後ノ配備ニ就キ指示ス

○陸軍部隊反轉期日(X日)ヲ八月十九日ト決定セラル

八月二十六日

○白螺磯ニ坐洲セル陸軍海上トラック「榮丸」引却、為揚北ヲ派遣セシム

八月二十七日

○廿號作戰部隊軍隊區分ヨリ早瀬上根大發ニ隻、杉丸及測量艇ニ隻ヲ除ク

○三〇〇現行廿號作戰揚子江部隊ノ軍隊區分ヲ解キ第一遣支艦隊機密第四〇號ニ四別紙軍隊區分トシ各警備區毎ニ陸軍協力廿號作戰ヲ續行ス

八月二十八日

○宇治勢多小鷹及膠濟ヲ上海ニ回航入渠修理セシム

八月三十一日

○旗艦ヲ宇治ヨリ安宅ニ變更ス

陸上司令部廳舎ニアリテ作戰ヲ指導ス

將旗ヲ陸上廳舎ニ移揚中安宅ハ新堤石匠密間ヲ行動上警

隊中警隊ニ協力セシム

九月七日

○榮丸引卸作業ノ為更ニ八曳ヲ派遣セシム

九月十日

○廿號作戰終結作戰部隊ノ編制ヲ解ク

○揚子江部隊指揮官ノ行動

○五月二十五日將旗ヲ宇治ニ復皈同艦ヲ率キ午一二〇〇漢口發ニ四〇九江着

二十六日各級指揮官ニ訓示ス

二十七日〇九〇九江發一〇三〇湖口着

二十九日〇九〇湖口發一八二五星子ニ進出ス

六月一日〇九〇〇星子發ニ二五七沙島西B地点ニ進出ス

二日一四一五B地点發一五四一都昌ニ進出ス  
三日午前都昌平野支隊長訪問市街及大鷄山陸戰隊基地ヲ視

察ス

四日〇八〇〇都昌發〇八二一象山ニ進出ス

五日〇九〇〇象山發〇九三三黃磯崖ニ進出黃磯崖ヲ視察セリ

七日一〇〇〇黃磯崖發二〇八南甌山ニ進出ス

八日〇九〇〇南甌山發一〇二七康山ニ進出ス

十日午前康山陸戰隊基地視察饒州水路啓開支援ヲ為四〇〇

康山發一五一七南甌山着

十一日陸軍平野支隊ト協同作戰ヲ為〇九〇四南甌山發一〇三八都昌着

十五日陸軍平野支隊ヲ輸送〇八〇〇都昌發一〇四二康山ニ進出ス

二十日瑞洪ヲ視察ス

二十日饒州作戰ヲ為一七〇〇康山發一八四七團轉ニ進出ス

二十六日〇八〇〇將旗ヲ保津ニ移揚〇八五五團轉發一四四五双港ニ進出ス

二十七日午前饒州ニ進出午後同地陸戰隊並ニ市街視察後一七〇〇

將旗ヲ宇治ニ復飯ス

七月三日一六〇〇團轉發一七五七康山ニ回航ス

四日〇六〇〇將旗ヲ小鷹ニ移揚廣信江(余江迄)ヲ視察余江ニテ

平野支隊長訪問、後康山ニ歸投將旗ヲ宇治ニ復皈ス

六日〇七〇。將旗ヲ小鷹ニ移揚東西河ヲ視察南昌ニテ南昌基

地隊巡視第十一軍戰鬥司令所訪問、後贛江水路ヲ九〇。

吳城着將旗ヲ宇治ニ復皈一九二大鷄山ニ回航ス

七日一三〇。大鷄山發九江黃州ヲ經由

九日一三五漢口着

九日上流方面視察ヲ為。九〇。漢口發一四八赤壁着

二十日。九〇。赤壁發一六五岳州着

二十五日。八〇。岳州發一六四五漢口歸着

三十日。中下流方面視察ヲ為。九〇。漢口發一八八九江着

三十一日。八〇。九江發一四八安慶着

三十一日。八〇。安慶發一六三九湖口着

二十九日。七三。湖口發一八八大鷄山ニ進出ス

三十日。一四〇。大鷄山發一六三三康山ニ進出ス

八月十日。九〇。康山發一七二〇九江着

十一日。九〇。九江發一八〇〇黃州着

十二日。八〇。黃州發一三三〇漢口着

十五日。九〇。漢口發一八五九江着

(四) 麾下及友軍、行動概要

(一) 麾下、行動概要

(1) 主隊 宇治保津、五月三十日迄、星子進出、自後概不鄱陽湖方面ニリ

テ鄱陽湖部隊、作戰ヲ支援ス

(2) 鄱陽湖部隊 (二見竹丸、甲陸、一二砲艇隊) 五月二十八日迄、星子進出

六月一日ヨリ行動開始

陸軍平野支隊、都昌、黃磯崖攻畧ヲ支援、レツ砲艇隊ヲ以テ六月五日康

山迄水路啓開進撃

陸戦隊、六月一日大沙島、三日大鷄山、八日康山ヲ占領、セリ、同日ヨリ十三日迄

二十日 鄱陽湖部隊撤退支援、為。九〇。九江發、四〇。大鷄山進出ス  
 二十四日 八〇。大鷄山發。九四五星子着  
 二十五日 一三〇。星子發。一六三〇九江着  
 二十七日 各級指揮官ニ對シ訓示ヲ行フ  
 二十八日 八〇〇九江發。一五一五石灰窰着  
 二十九日 〇七〇石灰窰發。四四五漢口着  
 三十一日 一〇〇〇旗艦ヲ宇治ヨリ安宅ニ變更ス  
 爾後陸上艦隊司令部聽命ニ在リ



饒州水路ヲ入宇腦迄啓開スリ同十五日平野支隊、梅溪上陸ヲ支援陸軍ト併進、廣信江ヲ啓開同二十三日余江ニ進出ス  
 饒州作戰後ハ概テ鄱陽湖ニ廣信江水路ヲ維持確保周辺ヲ掃蕩ス實施八月下旬陸軍部隊、廣信江ヨリスル反轉ヲ支援シタル後鄱陽湖ヲ撤退ス

(3) 饒州攻畧部隊(主隊、鄱陽湖部隊主力、測量部隊、附屬隊、南昌部隊一部及新漢警ヲ編成、砲隊(山砲二門)並ニ砲艇隊(艇四)ハ二十五日行動開始掃海部隊ハ水路ヲ啓開進撃、水偵ヲ以テ八字腦双港、敵陣地ヲ攻撃スルト共二十六日陸戰部隊ヲ以テ八字腦ニ敵前上陸、一九三〇饒州ニ突入ニ〇〇完全ニ之ヲ占領ス

(4) 南昌部隊(小鷹、美快、乙陸、三四砲艇隊)ハ一部ヲ以テ贛江水路ヲ維持確保スルト共ニ主力ヲ以テ萬金街ヨリ三江口臨川ニ至ル水路ヲ啓開確保陸軍部隊ハ渡河ヲ支援ス

六月十六日滁槎附近、嚴重ナル閉塞線ヲ突破十七日南昌、梅溪間東西河水路ヲ完全ニ啓開七月初陸軍、棠棠ヨリ滁槎ヨリ瑞洪ニ至ル東西河南方水路ヲ啓開セリ、八月下旬陸軍部隊、東西河ヨリスル反轉ヲ支援シタル後兵力ヲ撤退ス

(5) 下流部隊(下流警戒隊、飛鳥)ハ哨區ヲ移動警戒シ水路ヲ確保スルト

共ニ陸軍ト協力太陽洲或ハ土橋附近ニ陸戰隊ヲ揚陸掃蕩ス

(六)洞庭湖部隊(上流警戒隊)ハ陸軍部隊、陽動作戦呼應、七月十日  
十三日洞庭湖内ニ進入鹿角、九馬嘴ニ對シ砲撃ヲ加ヘ敵ヲ牽制ス  
隅田ハ六月二十一日一五四五新堤ニ於テ敵戰闘機五機ト交戦之ヲ撃退セルモ  
人員、船体兵器機関ニ多少、被害ヲ蒙リタリ

(七)測量部隊ハ主トシテ鄱陽湖方面ニテ主水路、測量、設標、航路浮標  
、補修ヲ行フト共ニ東鄱陽湖主水路附近陸測ヲ實施ス

(八)附屬隊(新鴻興、早瀬、八曳、牟婁丸、水偵)ハ概ネ鄱陽湖方面ニアリテ  
補給修理、傷者收容等ニ任ゼリ水偵ハ梅渚上陸作戰、饒州攻畧作  
戦ニ協力スルト共ニ東鄱陽湖方面、寫真偵察、景德鎮、樂平方面偵  
察攻撃ヲ實施ス

察攻撃ヲ實施ス

(九)第一次土流作戰揚子江部隊軍隊區分ヲ解キタル後、吳城ニ乘襲セル敵  
機ヲ吳城砲艇基地隊ニ撃退セル外殆ト對敵行動ナシ

(二)友軍ノ行動概要

第十三軍ハ五月中旬ヨリ行動開始主力ヲ以テ浙贛線沿線、敵ヲ撃  
破シツ西進六月十五日ハ廣信占領七月初橫峯占領第十一軍ト連  
絡浙贛線、打通ヲ完了ス  
一部兵力ヲ以テ麗水、温州方面ヲ攻畧ス

第十軍の主力を以て五月末南昌方面より進撃を開始す

東に向ル第三十四師團ハ敵七十五師ヲ撃破シツツ六月三日進賢五日

東郷ヲ占領

崇仁攻畧ニ参加セル後再び轉進折贛線に沿ヒ東進六月十六日鷹潭及

貴溪ヲ占領

二十九日ハ弋陽七月一日横峯ヲ占領爾後概テ貴溪以西ニテリテ周辺

ノ敵ヲ討伐スルト共ニ占領地ヲ確保占領地ニ於ケル押收物資ノ後送ヲ

支援ス

南東方に向ル第三師團及竹原支隊ハ六月五日臨川八日崇仁十二日建

昌ヲ占領敵第五十八軍第七十九軍ヲ潰滅セルメ又六月二十五日梨溪周

邊ニ於テ敵第四軍ヲ捕捉殲滅更ニ七月五日直リ贛江右岸樟樹鎮

附近ニ於テ敵第五十八軍ヲ撃滅ス

第三師團主力及第四十師團ヨリ派遣シ今井支隊ハ七月末迄三原駐

地復飯セリ爾後竹原支隊ヲ豫備トシ井手塘兩支隊ヲ以テ許灣

附近ヨリ下流撫河ノ線ヲ確保シ周邊地區ヲ隨時討伐ス

鄱陽湖方面行動ノ平野支隊ハ海軍部隊嚮導支援ノ下ニ六月廿都

昌ヲ四月黄磯山崖ヲ占領ス

六月十五日梅溪ニ上陸海軍廣信江啓開部隊ト併進二十日余江ヲ

占領廣信江沿岸ヲ確保ス

今井支隊、高橋大隊、南昌部隊ノ東西河啓開ニ伴、臨川ヨリ轉進大鷄渡以西、廣信江及東西河沿岸ヲ確保、水路兵站線ヲ確保ス。

第十二軍、八月十九日反轉ヲ開始、殆ド敵ヲ妨害ヲ受クルコトナク、海軍協力ノ平野、高橋支隊ハ二十一日迄ニ主力ハ二十五日迄ニ概ネ反轉ヲ完了ス。

岳州方面第六師團ハ六月十日ヨリ岳州南方ニ陽動敵ヲ出撃ニ對シテ大攻撃ヲ與ハシ、

陸軍航空部隊ハ常時南昌方面戰場ニ於テ敵兵力ニ對スル攻撃ヲ偵察、味方ノ連絡ヲ任ズルト共ニ遠ク桂林、衡陽、零陵等ノ敵航空基地ヲ

以敵軍ノ實況  
攻撃之ヲ覆滅ス

廿號作戰當初第十二軍正面向敵ハ大ニ抵抗ヲ試ミルコトナク潰走ス。進賢方面敵第七十五師ハ進賢、東鄉ニ於テ撃破セラレ、鷹潭方面潰走ス。

第九戰區ヨリ未援ノ第七十九軍ハ臨川、崇仁地區ニ於テ捕捉殲滅セラレ、徹底的攻撃ヲ蒙リ建昌南方山中ニ逼塞ス。

第五十八軍ハ白馬寨方面ニ進出セルモ戰意ナク七月初樟樹鎮方面ニ於テ撃破セラレ、其ノ後殆ド積極的行動ナレ。

第九戰區ハ更ニ第三戰區救援、為第四軍ヲ東進セシメ第七十九第五軍ト共ニ臨川奪還ヲ企圖セルモ第七十九、五十八軍ハ消極的ニシテ第四軍ハ我軍ノ術中ニ陥リ梨溪、宜黃地區ニ誘致包圍殲滅セラレ七月中旬第九戰區ニ復歸セシメラレタリ

撫河方面第五十八、七十九軍ハ被占領地奪回我軍ノ攻撃ヲ命ゼラルモ一般ニ動向低調ニシテ主力ハ遠ク退避潛伏シ少數、兵力ヲ激シテ我軍ノ動靜ヲ窺ハレタリ。我軍ノ一部兵力抽出ヲ全面的反轉開始ト誤認シ八月三日未明ヨリ各方面共ニ齊ニ攻撃シ来リ戰意相當執拗ナリモ何レモ我軍ノ果敢ナル攻撃ニ撃碎セラレ

浙贛線方面ノ敵ハ七月下旬我軍ノ反轉ヲ豫想シ第二十五、百軍ニ貴溪、鷹潭、許灣方面ニ出撃ヲ命ジタリ

黎塘方面ニ進出セル第十九師ハ八月初旬我軍ニ撃破セラレ潰走ス徹底的打撃ヲ受ケタル敵ハ遠ク山中ニ遁入戰意乏シク少數兵力ヲ以テ我軍ノ動靜ヲ窺ヒランノミニシテ我軍ノ反轉ニ當リテモ僅ニ小部隊ヲ追尾アリタルノミ

敵空軍ハ屢々漢口、九江、南昌、岳州等ニ出撃シ来リ又揚子江航行船舶ヲ攻撃シ或ハせ號作戦戰場出現スル等相當活潑ナル活動ヲ見セタリ我陸軍航空部隊ノ屢次ノ攻撃ニ八月中旬ヨリ殆ド潛伏スルニ至レリ

本作戦期間中敵佈雷隊ノ活動見ルベキモノナシ

(二) 作戦ニ影響セシ事項

- (一) 水偵ハ敵情並ニ地形偵察敵攻撃ニ任ジ作戰遂行上極メテ有効ナリ
- (二) 鄱陽湖方面於テ敷設機雷或ハ放流機雷豫期以上ニ少ク為ニ水路啓開ハ極メテ圓滑迅速ニ行ハレタリ
- (三) 増水ノ為水路明確ナラス掃海面主水路ヲ離ルルコト屢アリ為ニ再掃海セルコト再ニナリ
- 尚急激ナル増水ハ為航路標識流失シ操艦ニ不便ヲ感ジタリ特ニ梅溪ヨリ瑞洪ニ至ル水路ハ水路複雑ナル為坐洲セルモノ多シ
- (四) 今次作戰ニ於テ敵空軍ノ活動稍見ルベキモノアリ。之ニ對スル我軍ニ航空兵力殆ド無ク敵機ニ對シテハ攻勢ヨリ寧守口守勢ニ立テル為作戰遂行上有形無形ニ影響スル所アリタリ

（作戦終了時）於ル當面情勢は揚子江部隊指揮官の状  
況判断

今次は諸作戦の酷暑、候未知、水域地域に長期に亘り實施セラレ  
タル周到ナル計画ト攻撃ノ精神旺盛ニテ、適切果斷ナル  
行動は海陸軍、密接ナル協同ニ依リ、絶大ナル戦果ヲ以テ終

結セリ

作戦當面、第三戦區ノ敵は、第九戦區ヨリ第三戦區ニ來  
援セル敵軍ハ我軍ノ徹底的ナル攻撃ニ依リ潰乱状態ニ  
陥リ、戦意全ク喪失シ陸軍部隊ノ反轉ニ當リテモ悉ク追尾スル  
モノナク山中ニ潛伏シ残存兵力ヲ集結シ置状況ナリ

第五第六戦區方面ニ於テハ新四軍ハ敵正規軍ノ南方ニ壓迫  
セラレ其一部ハ江南ニ移動セリ而シテ江南第九戦區方面ニアリテモ  
討伐サレツツアリテ正規軍ト新四軍ト別ル所ニテ地盤獲得ノ  
闘争ヲ續ケツツアリ

蒋介石ハ我國カ對蘇開戦ヲ發動セザル場合相北ヨリ長沙  
衡陽ニ向ヒ進攻スベト判断之カ對策ヲ準備シ我軍ノ動  
向ヲ偵察セシムルト共ニ一部ニ牽制攻撃ヲ命ジアリ  
敵空軍ハ一時我陸軍航空部隊、攻撃ヲ阻伏シアリタルモ

四戰果

の機雷處分數

鄱陽湖方面

鄱陽湖水路

饒州水路

廣信江

南昌方面

贛江水路

其他

下流方面

上流方面

洞庭湖内

揚子江本流

九月三入リ戰機ヲ以テ南昌方面ニ來襲シ來レリ  
尚今後桂林衡陽ヨリ南昌方面ニ出撃ノ算ナリ

一  
一  
二  
二  
〇  
〇  
〇  
一  
三  
三  
一  
五

合計四七



(四) 防材爆破

徐	双	團	楓	撫	塘
槎	港	轉	港	家	防
防	防	防	防	防	防
材	材	材	材	材	材

二	一	二	一	一
條	條	條	條	條
東	饒	廣	江	江
西	州	江	水	水
水	水	水	路	路
路	路	路		

(一) 空襲 銃 爆 擊

攻 擊 自 標

梅溪敵兵	四溪塔(饒州東南)軍事施設	八字腦双港軍事施設及敵兵	樂平軍事施設	景德鎮軍事施設及敵兵
延機數	水道三機	水道一機	水道四機	水道九機
使用彈數	六番陸用爆彈 二〇	六番陸用爆彈 五	六番陸用爆彈 五〇	六番陸用爆彈 一三六

(二) 敵 損 害

遺棄死体

補 虜

鹵獲兵器

二二六  
二二五

小銃一九拳銃二手榴彈一九小銃彈三四拳銃彈二六三

我軍、被害

人員

(一) 戦死者一五名 (准士官以上四名 下士官兵一名 准員一名)

(二) 戦傷者二三名 (准士官以上二名 下士官兵一名 特設砲艇員二名)

(三) 船艇関係

(一) 觸雷

(二) 坐州

海軍関係

右以外

(三) 被攻撃予(船体機関)

敵機ニ依ル

敵銃撃ニ依ル

鄱陽湖廣信江

南昌方面

其ノ他

廣信 江陸軍徴傭民船約

南昌方面

其ノ他

彈痕ヲ出ル以上

隅田 九警三號中隊其他是ニ卷テ汽艇一哨並艇一

第ニ砲艇隊ニ號中一砲

戦死傷者一覽表

年月日	戦死傷別	所屬艇隊	所轄	海上官	下士官	兵	佐傭人	記事
五六三	戦死	隅田	隅田	四	五	二	一	新提督放戦 手帳上交戦 戦死傷
"	戦傷死	"	"	〇	二	〇	〇	
"	戦傷	"	"	二	九	八	〇	
"	"	四〇八砲艇	"	〇	〇	〇	二	交代為信國名 赴任途敵機銃 戦死傷
五七六	戦傷死	甲陸戦隊	廣益	〇	一	〇	〇	赴任途敵機銃 戦死傷
五九二	戦傷	三號中砲	九登	〇	一	二	〇	赴任途敵機銃 戦死傷
"	"	一號汽艇	"	〇	一	一	〇	赴任途敵機銃 戦死傷

戦死者大佐山崎嘉三 機關特務中尉長屋義明 特務少尉佐藤

善次郎 兵曹長早川四郎 二曹加藤忠一 二曹小野十郎

三曹松尾清吉 三曹矢尾板健治 三曹鈴木堅次郎

二機高橋清司 二機菊地四郎 通辯東本康正 (空隅田)

戦傷死者 三曹大島國雄 (三月二十日) 三曹鬼澤虎次郎 (三月十九日)

二曹淺野正雄 (七月二十六日) (廣益)

(空隅田)

(使用彈藥數)

別紙第一第二

五功績

今次作戰ニ於テ揚子江部隊ハ揚子江水路ヲ警戒確保シツツ陸軍部隊ニ  
 呼應シテ鄱陽湖方面ニ作戰シ陸軍ト協カシテ所在敵兵力ヲ撃破掃蕩  
 スルト共ニ鄱陽湖水路ヲ啓開シテ陸軍部隊ノ輸送迄ニ補給ヲ支援  
 シ更ニ洞庭湖方面ニ所要ノ兵力ヲ進出セシメテ陽動ニ牽制ヲ安貝施セル  
 等當隊兵力ノ大部ヲ以テ諸種ノ作戰ヲ安貝施シ遺憾ナク其ノ目的  
 ヲ達成セルモ此ノ間幾多ノ困難ヲ伴ヒタリ  
 即チ

- 一、今次作戰ニ於テ主攻撃點タル鄱陽湖方面ハ始メテ作戰スル水域ニシ  
 テ敵情、地形、水路不明ナリシノミナラス相當防材、機雷等豫想セシ左  
 諸點ニ多大ノ苦心ヲ要シタリ
- 二、未知ノ水路ヲ探索シ啓開スルヲ要ス
- 三、暗夜長時間ニ亘リ多數ノ陸軍ノ舟艇ヲ嚮導所要時期ニ所要地  
 點ニ到達セシムルヲ要ス
- 四、少數ノ陸戰隊員ヲ以テ要地防備ノ要アリ
- 五、充分ナル陸軍兵力ヲ協力ヲ得ズ陸軍ノ作戰ニ協力シツツ一方獨力  
 ニテ所要作戰遂行ノ要アリ
- 六、陸軍兵力ノ轉用ニ伴フ江岸警戒備ノ稀薄ニ乘ズル敵ノ蠢動ヲ完封

スルニ多大ノ苦心ヲ要シタリ

三、我ニ航空兵力殆ド無ク又充分ナル防禦兵器無キ状態ニ於テ敵空軍攻撃ニ對シ常ニ守勢ノ立場ニ於テ之ヲ撃退スルヲ要ス

右ノ如ク幾多ノ障礙アリシモ拘テ各部隊ノ積極的攻勢緊密ナル連絡ニ依リ又事前ノ周密ナル準備ト適切ナル作戰實施ト相俟ツテ作戰ハ極メテ圓滑順調ニ經過シ所期ノ目的ヲ十分ニ達成シ我海軍ノ威力ヲ遺憾ナク發揮セルモノニシテ各艦(隊)其他作戰ニ協力セル部隊ノ功績極メテ大ナリ

特ニ其ノ功績顯著ナルモノ左ノ如シ

ハ 饒州作戰部隊

田村兵曹長、指揮セル陸戰部隊ハ六月二十六日朝八時腦北方ニ上陸、雨天泥濘ノ中ヲ強行進撃敵ヲシテ立直ル暇ヲ與ヘズ同日一九三〇。饒州ニ突入シ。之ヲ完全ニ占領シ以テ爾後ノ作戰ヲ容易ナラシメタリ

四 後藤飛行兵曹長、指揮ノ九四式水偵一機ハ連日鄱陽湖方面ノ敵

情地形ヲ偵察シ我軍ノ作戰ヲ有利ニ導キ且六月十五日陸軍平野支隊ノ梅溪上陸ニ當リ之ヲ護衛誘導シ上陸ヲ支援スルト共ニ敵ガ退却ヲ開始スルヤ逸早く之ニ對シ有効ナル銃爆撃ヲ加ヘ爾後陸

軍、進撃ヲ容易ナラシメタリ

(一) 滑走艇隊ハ六月十五日陸軍平野支隊、梅溪上陸ニ當リ敵ノ交撃ヲ制壓シツツ退路ヲ遮断シ、又數次ニ具ル陸軍山砲隊、渡河ニ協カシ陸軍作戰ヲ容易ナラシメ且甚大ナル戦果ヲ擧ゲルヲ得セ

シメタリ

(二) 下流部隊

飛鳥及四〇四砲艇ハ五月二十九日夜土橋北方ヲ根據トスル新四軍ガ糧食徵發ヲ企圖シ渡河セントスルヲ逸早く發見九名射殺(内前五五團長黃大佐、政治委員肖(大佐相當)アリ)九名ヲ捕虜トシ敵ノ企圖ヲ封殺シ且敵爾後ノ行動ニ妨月成ヲ與ヘタリ

終